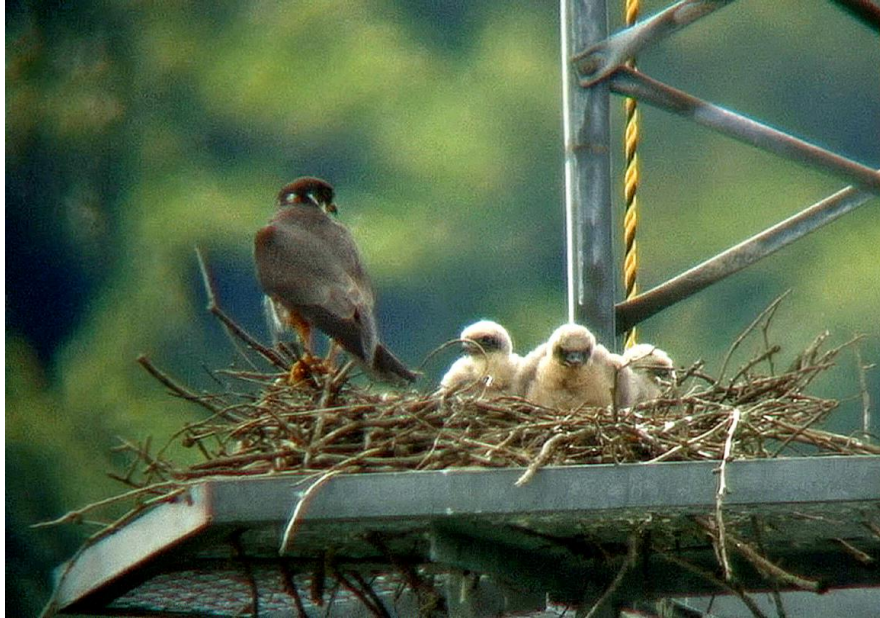


チゴハヤブサの雛 元気に巣立ちました

無線用鉄塔の中腹で、子育てに励んでいたチゴハヤブサ。

巣の場所は日除けとなる繁みなどは無く、周囲から丸見えの状態です。天敵のカラスなどから、卵やヒナを守るのは大変だったことでしょう。



8月7日 真っ白い綿毛に包まれた3羽の雛。今が一番可愛いときかも。

7月に子育ての始まりを紹介してきました。

あれから約1か月間、雛が巣立つまでには様々な難関が待ち受けていました。何ととっても今年是全国的な猛暑、猛暑の連続でした。巣には日差しを遮る枝などは無く、直に太陽光線が差し込んでくるので、かなりの暑さに達していたことでしょう。

親鳥は巣の中に入ると、翼を広げて日陰を作り大事な雛を守っていました。だが、猛暑だけではありません。台風並みの強風が吹き荒れ、大雨の試練にも遭遇したのです。

雛や巣材の枝が吹き飛ばされたりしないだろうか心配したが、なんとか持ち堪えました。



8月15日 もう羽ばたきの練習です。ずいぶん遅くなりました。



8月19日 飛び降りたのか、落ちてきたのか分かりませんが・・・。T氏がカメラを向けても警戒心は無く、その距離2mだったとか。

親鳥はいつも鉄塔のてっぺんに陣取り、周囲を見張っています。

100メートル以上も離れた場所を横切るカラスやトビ等を見つけると、キッキッキーと甲高い声を発しながら、圧倒的なスピードで追いつき上下から威嚇攻撃。チゴハヤブサより数倍も大きいトビは、翼を捻りながら逃れるのがやっとです。

カラスも同じように攻撃を受けると、さっさと退散してしまいました。でも、頭のいいカラスのこと、何回か攻撃されると鉄塔にはほとんど近寄らなくなったのです。



幼鳥の羽は白い縁取りがあります。



親（右）から餌のセミを受け取った。

こうした親鳥の徹底的な天敵作戦と、懸命な給餌行動により、3羽の雛はすくすくと育つことが出来たのです。

8月19日、鉄塔の所有者であるT氏が農作業中、高さ20センチほどの境界柱にちょこんと立っていた1羽の雛を見つけました。この子が最初の巣立ちです。ここは鉄塔の真下から10メートルも離れていないことから、25メートルの高さにある巣から飛び出したというよりは、うまく飛べずにばたばたしながら落ちてきたような状態だったのでしょう。

しかし、その後は数日を経て3羽の雛は元気に巣立ちを終えることが出来ました。



雛は1か所に集まり、親が運んでくる餌を待っています。



12枚の尾羽を開き、かっこよく決めた？。